

立教開宗
850
年



第196号

令和5年
10月27日発行
お十夜号

西光



No 仏教, No Life 随喜のすすめ

坊主のつばやき 大事な方を忘れていた…part1&2

宗祖法然上人立教開宗850年記念事業

限定夜間拝観「PureLand Lights」レポート

「寺フェス～この世のならひ」レポート

Column 「See you」の儀式

お知らせ

お十夜法要のご案内

編集後記



浄土宗西山禅林寺派

雲龍山 西光寺

住職 大塚靈閑

〒671-0101

姫路市大塩町229番地

Tel 079-254-0351

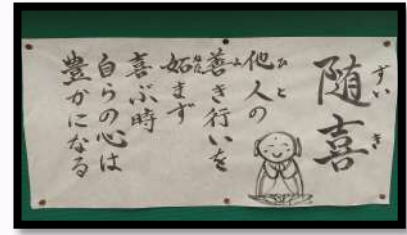
Fax 079-254-4142



西光寺公式LINE

ID:@495ehfde

随喜のすすめ



10月の門前掲示板より

随喜。なんとも取っ

付きにくそうな匂い
の漂う字面と響き...

しかし随喜は身近な
ことです。皆日々自

然にしています。他人
のなした善き行いを

その人の気持ちに
随つて、思いを馳せつ

つ喜ぶということだ
随喜。要は他人のな

した善き行いを「おーイネー」と喜
んで、パチパチと讃えることです。自

らの罪過を滅する修行法の一つとし
ても「随喜」は登場したりもします。

大リーグのエンゼルス大谷翔平選
取はよく球場に落ちているゴミを

拾っては自分のポケットに入れてい
ます。誰もが純粋にさすがだなくと

思います。

またサッカーのW杯などで日本の
サポーターが自発的に試合後、会場

のゴミ拾いをしている光景も話題に
なりました。しかしこれには不思議

と偽善だ、エエ格好しいだという声

があるのです。

どうも私たちは「何をするか」では
なく「誰か」それをするのかによって

思いが左右されるようです。

この随喜、誰かがする小さな善行
だけにとどまりません。お釈迦さま

や仏さまレベルの超人的な方のなさ
れたことに対して喜び、讃えること

も含まれます。我々お坊さんの世界
では各種法要に参列させて頂くこと

を随喜するといえます。仏の教えを
頂く勝縁に遇わせて頂くことを喜ぶ

という意味では同じです。いや、自
分にはとてもそんなことはできん

さんと思っても、随喜することが勧
められております。

なぜでしょう。それは他人の善行に
随喜することが自分自身の善行とな

るからです。それどころか、随喜す
ることは、自分でそれをやった以上

に功德があるというのです。なぜそ
ういえるのかというと、善き行いを

している人が全くの他人であろう
と、苦手な人であろうと、自分との

関係性を取り払い、純粋に素直に心

から喜ぶということは実に難しいか
らです。そこには嫌味や嫉妬、先入

観などが入り込み見えない壁がなか
な取り払えないのです。そういつ

た壁を取り払い喜ぶことを求められ
ることから、自分で実際に行なう以

上に値打ちがあり、自身の心を豊か
に成長させてくれるのです。

現代社会ではとにかく実践が重視
され、いくら頭であれこれ思ってい

ても実際自分自身がやらなければ意
味がないとされる風潮があります。

しかし随喜はそうではありません。
したくてもできない人を見捨てるよ

うなことはいたしません。仏の世界
はどこまでもおおらかです。

今日一日、これという善事ができ
なかつた時は、せめて他人の善事を

讃えさせて頂きましょう。

一日一善ならぬ、
一日一随喜の生活を。

坊主のつぶやき



大事な方を忘れていた…



先の高砂の万灯祭で手に入れた版画。十輪寺副住職西田公亮師によるアマビエ。コロナでにわか人気者になった。玄関に置くと良いとのこと、今更ながら庫裡の玄関に置かせて頂いている。

かつては疫病退散のためには、神仏にすぎるしか術がなく、お寺や神社を作ったり、仏像を作ったり、疫病退散の祈願法要やお祭りをしたり…東大寺の大仏や祇園祭はその代表例。そう思うと科学が発達した今でも人間の心情的には神仏に頼る気持ちは変わらないのかもしれない。

そういえば当寺にもいらっしゃったではないかと今更気づいた。疫病退散や病氣平癒の仏さまが。そう薬師如来である。このお薬師さん、正確



には西光寺のものではない。元は中ノ丁の地藏さんの所にあった潮照寺のご本尊である。大塩天満宮の神宮寺であった潮照寺は明治時代、神仏分離令の影響で廃寺となった際、西光寺が譲り受けた。

蓮台(お座りになっている台座)や光背(背後に光っているもの)は新しいものだが、本体は平安時代のもの。組んだ足の所の虫食いが激しい。一般的に如来は悟っているのでごちゃごちゃ持ち物や装飾品をつけずシンプルなお姿をされている。しかし薬師如来は薬壺(やくこ)という万能薬的なものが入った壺を持っている。この万能薬、コロナにも効くのだろうか…この機会にもう少しフィーチャーしてあげればよかった…

大事な方を忘れていた…part2

日本でも急速に地位を確立してきているハロウィンと最強イベントのクリスマス。キリスト教の三大祭はクリスマス(降誕祭)、イースター(復活祭)、ペンテコステ(聖霊降臨祭)の三つ。知らなかった…ハロウィンは入らない。ペンテコステとは馴染みのない言葉だが、キリスト教会が誕生した日ということらしい。



2/15
ブッダのご命日に勤める
ねはんえ
涅槃会



4/8
ブッダの誕生を祝う灌仏会
かんぶつえ
(はなまつり)



12/8
ブッダがさとりを開かれた日に勤める成道会
じょうどうえ

では仏教の三大祭(法会)はどうだろうか？涅槃会、灌仏会、成道会がそれである。日本の仏教では不思議なことにお釈迦さまの影が薄いのはうすうす皆様もお気づきかもしれない。西光寺でも現在お勤めしている年4回の法要(3月と9月の彼岸会、8月の施餓鬼会、11月の十夜会)は直接お釈迦さまにスポットが当たっていない。はなまつりは細々とやっているが、他は…いやはや大事な方を忘れて…はいないが、もう少しフィーチャーして差し上げないといけないなといつも思うことは思っている。現在、姫路市仏教会の役を頂戴していることもあり、名古屋山霊苑での上記三大法要にお参りさせて頂く。有難いご縁と思い、随喜してきます。

宗祖法然上人立教開宗

850th

宗祖法然上人立教開宗850年記念事業
限定夜間拝観

「PureLand Lights」レポート



プロジェクションマッピングの光の技術と池上の僧侶の読経が融合した新感覚な法要の形



ほうじょういけ
メイン会場の放生池



極楽橋から



極楽橋から御影堂へ続く階段



お経に合わせて東山に永観堂が所有する
国宝山越阿弥陀如来が映し出される。



放生池上で安田登一座(ノボルザ)×
僧侶による創作能『法然上人と室津の
遊女』



御影堂の縁側での法然上人追慕の法要



プロジェクションマッピング
によるもみじの光の参道



光の参道を行道する僧侶

10/7～15、本山永観堂では浄土宗が開かれて
850年を記念して限定夜間拝観「PureLand
Lights」を開催しました。凜とした空気の中、静
かに流れる音楽、境内を流れる小川のせせら
ぎ、鳥のさえずりや虫の鳴き声、遠くで響くお
経、きらびやかに光り輝く池(宝池)・・・まさにそ
こは極楽浄土そのもの。プロジェクションマッピ
ングに彩られた池の上を舞台に法要や創作能が
繰り広げられました。

宗祖法然上人立教開宗

850th

宗祖法然上人立教開宗850年記念事業

「寺フェス～この世のならひ」レポート



10月14～15日、大塩でお祭りが行われている一方で、京都の本山永観堂でも「寺フェス」という祭りが行われていました。フェスといっても芸人やタレントが大勢来るとか音楽ライブがあるわけではなく、お坊さん

達による手作りのイベントなのです。普通のお寺と違って観光寺院では仕事が分業化され意外とお坊さんに出会いません。というわけで「お坊さんと遊ぼう」をコンセプトに、お坊さんが普段お経を読む際に使う楽器の体験、普段来ている衣や袈裟をつけてみるコスプレ体験、実際棺の中に入ってお経をあげてもら^{りんじゅう}う臨終作法体験、いつもはお茶を頂くお坊さんが逆にお茶を給仕するなどなど。しかし、なんと外国人の多いことよ・・・臨終作法体験の説明など難易度が高すぎます。でも皆優しいのです。「You are almost dead」など訳の分からないことを言っても、当方の拙い英語から最大限の努力と根気でもって理解してくれようとするのです。

私のメインの担当は屋外ブースで、ゲストのお坊さんをお招きして様々なお話しをお聞きするというラジオパーソナリティー役でした。

アドリブのライブ感を楽しんでもらうべく、あえて事前の打ち合わせはほぼなし。話す内容を事前にしっかりと準備して臨む普段のお説教とは正反対の試みです。もちろん初めてのことで、一抹の不安はありながら、まあ何とかなるだろうと思っていたら、これが意外と楽しかったのです。話す内容も堅い話ではなく、敷居のひく～い話ということもあり、1時間くらいずっと座って聞いて下さる方もいらっしゃいました。

さて、そのトークライブから一ネタ。ゲストのお坊さんに「お寺さんって普段でも精進料理しか食べないのですか」てよく聞かれませんか？と質問をしてみました。するとその方は「私は出されたものは選り好みせず、何であつても美味しく頂きます」とお答えになった後、おもしろいお話をされました。

ある禅寺でマグロのお造りそっくりなものを出したところ師匠が怒った。生の魚じゃないからいいじゃないかと思っているかもしれないが、もう似せている時点で本当はマグロのお造りが食べたいと思っている心がおまえにはある。それは精進とは言わん。とのことです。

とはいえ、実際精進料理ではもどき料理が実に多くあります。マグロの刺身を赤こんにやくで作るマグロもどきも有名です。今では創作精進料理のような工夫を凝らしまくっている料理も登場しています。

ちなみに本山で修行中はさすがに精進料理でしたが、揚げ出し豆腐の美味しさに感動した記憶があります。やはり油もの強し。

まとまりのない話で失礼しました・・・



臨終作法体験。

葬儀 = See you

久しぶりに昔の友達に会って、互いの近況や昔の思い出などを話して楽しい時間を過ごし、「また会おうね、また連絡するね」と言って別れる。しかしその「また会う」機会がなかなか訪れないことがあります。もしかするとこれから一生会うこともないかもしれない。それでも私たちは「またね」と言って別れます。

病院に親族や知り合いのお見舞いに行き、直感的に「もしかするとこれで最後かもしれない」と思う時でもやはり笑顔で「また来るからね」と病室を後にするはずです。

これは英語にした方がわかりやすい気がします。別れ際に言うのは、実際の現場でも Goodbye ではなく圧倒的に See you だそうです。違いが分かるように日本語に訳せば「Goodbye=さようなら」、「See you=またね」です。See you は略さずというと I will see you. 私はきっとあなたにまたお目にかかるのだ、再会するのだという思い、願いが込められています。

ちなみに願いが込められているのは別れ際だけではなくありません。例えば「おはよう」もそうです。英語では Good morning です。文字通り訳せば「良い朝」です。これは I wish you a good morning. が略されています。私はあなたに良い朝が訪れることを願っている、つまり良い朝が迎えられるように、となります。

(I wish you a) happy new year.

(I wish you a) merry Christmas.

も同じです。映画の吹き替えで「良い週末を！」と言われると、日本人だとそんな気障な表現はまずせんな～と思ったりするわけですが、そこにはちゃんと願いが含まれているんですね^^

そしてこの願いなんですけど、お経にも出てきます。先ほどの See you をお経で訳す!? と See you = 倶会一処くえいいつしょ となります。お葬式や法事などでお読みする『阿弥陀経』あみだきょう というお経に出てくる言葉で、書き下すと「俱ともに一処ともに会う」となります。たとえこの世で大切な方との別れを迎えようとも、阿弥陀仏のお迎えをいただき、極楽のお浄土の蓮うてなの台でまたお会いいたしましょうということです。最近お墓の正面に〇〇家先祖代々之墓の代わりに倶会一処と彫られてあるのを見かけることがあります。

お葬式は「Goodbye」の儀式ではありません。「See you」の儀式であらねばなりません。お葬式、そしてそれから始まる供養は亡くなった方のためにするものだけではなくありません。遺された者にとって「死んだら終わり」ではない、儀式でなければなりません。大事なことは自身にとって大切な人がどこへ行ってしまったのかということに不安を抱えながら問い続けるのではなく、大切な方が往かれた世界はこうであってほしいと願い、信じる気持ちです。お経には願いが詰まっています。

令和6年度年忌表

1周忌	令和5年
3回忌	令和4年
7回忌	平成30年
13回忌	平成24年
17回忌	平成20年
25回忌	平成12年
33回忌	平成4年
50回忌	昭和50年

年忌法要(法事)があつておられる方には別途ご案内致しますが、土・日曜日の午前中をご希望の方は早めに日時をご予約下さい。

ご逝去の報

的形	石原俊博さん	95歳	令和5年9月4日寂
大阪	梶原敏子さん	95歳	令和5年9月7日寂
西ノ丁	梶原絹子さん	100歳	令和5年9月15日寂
宮本丁	山本勝さん	62歳	令和5年9月21日寂
西ノ丁	石原タカ子さん	101歳	令和5年9月29日寂

今後の行事予定



■ 春彼岸会 令和6年3月17日(日) 午後1時～

お知らせ

11/8～16まで山口県9ヶ寺のお十夜法要に説教師として出仕のため留守にいたします。期間中のお月参り(お逮夜)はお休みを頂きます。予めご了承下さい。

永観堂

寺宝展・もみじのライトアップ
11/3(金)～12/3(日)

今年の寺宝展の目玉は、桃山時代きっての天才絵師、長谷川等伯の『波濤図』全12幅の一挙公開です。立教開宗850年記念事業の一環で、5年にわたる修復を経て、美しく蘇りました。国指定の重要文化財の実物と、高精細デジタル画像で制作されたレプリカを同時展示し、当時と現代の技術の両方を堪能頂けます。

また夜間は境内3000本のもみじがライトアップされ、幻想的な雰囲気の中お参り頂けます。



11/26(日)

じゅうやえ 十夜会

【説教師】

高砂 十輪寺住職

にしだ しゅうおう

西田州志師

午後一時〜

お勤め

午後一時半〜

塔婆回向

午後二時〜

お説教

午後三時〜

塔婆回向

【塔婆回向について】
とうばえこう

一霊 三〇〇円

西国三十三ヶ所の御詠歌をあげながら、ご先祖の供養をいたします。ご希望の方は当日世話人席にてお申込み下さい。戒名(〇〇家先祖代々、俗名でも構いません)と施主名(お申込みの方のお名前)をメモしてお持ち頂くとスムーズです。当日お越しになれない場合は事前にお預かりいたします。

編集後記

以前、ある講演会でお話しされていた先生が「私も昔は混雑の中、お正月に初詣に行っていました。今はもう行くのをやめました。そのかわり、大晦日詣に行くようになりました」とおっしゃっていました。その心はというと、初詣に行くとうしてもお願いばかりしてしまう一方で大晦日詣に行くと、とにもかくにもこの一年無事に過ごすことができたという感謝の言葉を言うようになったからだと思います。お参りする日が一日、二日違うだけなのにこうも違うもんなんですね。

私はというと大晦日〜元旦にかけてまだまだでお勤めをしております。ですので毎年元旦になったタイミングを知りません。おそらく坊主をしている限りカウントダウンとは無縁です。しかし年が明けるときに毎年お経を読んでいるというのも坊主冥利に尽きます。というわけで私の場合、大晦日詣も初詣も一応済ませてはいるのですが、元旦にはちゃんと大塩天満宮にもお参りさせて頂いております。

皆様もどうぞ良いお正月をお迎えください。また明年も宜しくお願い申し上げます。

合掌